

令和 6 年度豊橋市立豊城中学校研究概要（2 年次）

1 研究主題

自らを客観視し、最適な学びを自己決定できる生徒の育成
～世界（ひと・もの・こと）との関わり合いによる考えの再構築の繰り返しを通して～

2 主題設定の理由

急激に変化する時代の中で、社会の在り方そのものが、これまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わりつつある。「私たちはどう行動するべきか」という問いに、確信をもった答えを誰も見いだせない。これからの時代を生きる子どもたちは、予期せぬ事態に対しても、必要だと考えられる情報を、多くの情報の中から選択し、歩んでいく必要がある。

本校では、「自律と協調の精神を養い、知・徳・体の調和のとれた生徒の育成」～知性・品性・感性あふるる豊城中～という教育目標のもと、「自ら考え行動できる生徒」、「思いやりのある生徒」、「ねばり強い生徒」を目指し、豊橋市が推し進めている問題解決的な学習過程を基盤とした教育活動を行っている。生徒たちは仲間意識が高く、多様性を認め合える素地がある。一方で、自分の考えに自信がなく、多数意見に流されてしまうことも多い。他者を認めるよさを更に伸ばしながら、自律する力を高めていきたい。自らを振り返ることで自己理解を深め、今自分自身には何が必要で、何をすべきなのかを判断して行動できる力を育みたい。

社会情勢と生徒の実態を踏まえ、「自らを客観視し、最適な学びを自己決定できる生徒の育成」を目指す。そのために、自分の学びを、非認知能力を意識して振り返り、世界（ひと・もの・こと）と関わる協働的な学びを繰り返す。そうして自分になかった考えを知ったり、改めて自分の考えを見つめ直したりすることで、自分を客観視して、最適な学びを自己決定し、実行しようとすることができるだろう。

3 目指す生徒像

自らを客観視し、最適な学びを自己決定できる生徒

「最適な学び」とは、

- ・ 自らを客観視し、目標を達成するために必要なことを考えた学び

「自己決定できる生徒」とは

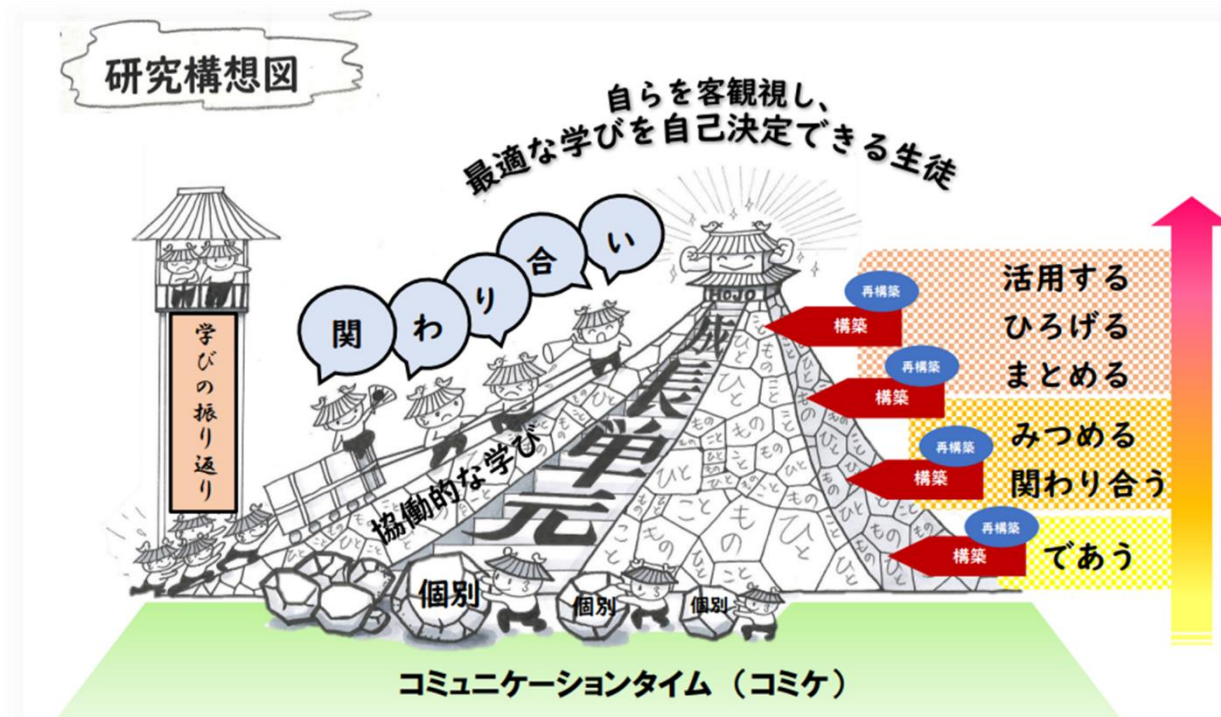
- ・ 最適な学びを考え、実行しようとすることができる生徒

教科として「自らを客観視し、最適な学びを自己決定できる生徒」とは、	
国 語	文字や音声で発信しながら、言葉の意味、働き、使い方等について ①仲間の考えと比較する中で、自分の考えを問い直す姿 ②学び方や自分の考えを更新し、最適解を導こうとする姿
社 会	見出した問題を解決するために、社会科的な見方・考え方を働かせ、資料やデータをもとに自分の考えを構築し、仲間と関わる中で自分の考えを再構築する姿
数 学	さまざまな解法を見たり聞いたりして自他の考えを比較する中で、自らの数学的な力を把握し、 ①自分に合った解法を決定して問題を解こうとする姿 ②挑戦・解決する問題を自分で選択して解決を繰り返すことで、学びを定着させていこうとする姿
理 科	理科の見方・考え方を働かせ、追究を行う中で、仲間や教師と関わり合いながら、仮説を見直したり、検証実験を繰り返したりして、最適解を導き出そうとする姿
音 楽	音楽的な見方・考え方を働かせた学習活動の中で、音楽表現に対する思いや意図に基づく自己の主張と他者との協調とを両立させながら、創意工夫して音楽で表したり音楽のよさや美しさを味わって聴いたりしようとする姿
美 術	造形的な見方・考え方を働かせた学習活動の中で、芸術作品や他者の表現のよさを比べたり、意図や工夫を味わったりすることで再構築を行い、自己表現を追求していこうとする姿
保健体育	運動を実践する中で、自己の課題を発見することができる。自己や他者の運動を観察し、仲間や教師との関わり合いを通して課題に対する解決策を見つけ出し、試合や発表等で実践する姿
技 術	自己評価や他者との比較、教師との対話等を行うことで、作品製作等の自らの課題を捉えようとする姿。 自らの学びを改善するために必要なことを考え、作品製作や行動にいかそうとする姿
家 庭	日々の生活の営みや仲間や教師との対話から捉えた自己の課題に対して、最適解を導き出そうと考えたり、習得した知識・技能を自らの生活にいかそうとしたりする姿
英 語	他者との関わりを通して、自分の課題やよりよい伝え方に気づき、コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて英語を使おうとする姿
作業学習 (特別支援学級)	仲間の作業や作品を見たり、意見を聞いたりすることで、自分の作業や作品、意見のよさや改善点について考え、それらを自分なりにいかそうとする姿

4 研究の仮説

①生徒自身が成長を感じられる授業展開の中で、②自分の学びを振り返り理解することと、③世界（ひと・もの・こと）と関わる協働的な学びを繰り返せば、自らを客観視し、最適な学びを自己決定することができるだろう。

5 研究構想図



〈研究構想図について〉

豊城中に隣接した豊橋公園には、豊橋市のシンボルである吉田城がある。城を築くには、強固な土台が必要である。本校の研究構想図は、コミュニケーションタイムで培ったコミュニケーション力を土台とし、世界（ひと・もの・こと）と関わり合うことで、自分自身の考えを再構築し、その学びを積み重ねていくことで目ざす姿へと成長していく様子を表現している。

6 研究のてだて

(1) 生徒自身が成長を感じられる授業展開をするために ①

○生徒が単元を通して成長を実感できる授業づくり

てだて①-1

・世界（ひと・もの・こと）との関わり合いの中で、自分の考えの構築と再構築を繰り返す学習展開ができる単元構想（成長単元）を構築する。（協働的な学びのてだて）

てだて①-2

・授業で生徒が成長を実感できる効果的な支援を講じる。（個別最適な学びのてだて）

※ 英語科、数学科の少人数指導を含む

(2) 生徒が自分自身を客観的に捉えるために ②

○自分の学びを見つめ理解するための振り返り

てだて②

・生徒が学びを客観的に見つめ、自己理解につながるように、非認知能力を意識した振り返りを実施する

(3) 自分の考えを他者に伝えられるようにするために ③

○関係づくりやコミュニケーションスキルの向上を図るコミュニケーションタイム（コミケ）

てだて③—1

・他者が自分を「認めてくれている」と思えるようにするためのコミケを実施する

てだて③—2

・うなずき、相づち、つぶやきなど、反応できる聞き手の育成を図るためのコミケを実施する